札幌大通地下ギャラリー

# 500m美術館「時の座標軸」ジュニアガイド

## 1 上遠野 敏

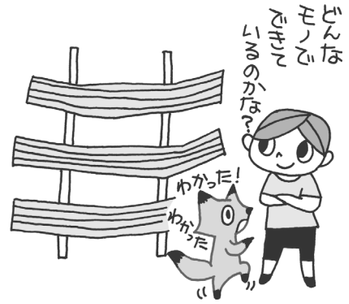
1955年、福島県生まれ。
札幌在住

### 「20世紀の肖像（炭鉱の記憶）」

数十年前まで北海道各地で質のよい石炭がほり出され、日本の近代化を支えていました。ここに展示されているのは、その炭鉱で実際に使われていた物です。そこは今どうなっていて、これからどうなっていくのでしょうか。作者がたくさんつくって下に並べた木や動物たちがそれをさらに深く考えさせます。

## 2 土田 俊介

1973年、札幌生まれ。
山梨県在住




### 「考えてもできないんだけど、考えないと出会えないモノ。No.14-05,06,09,11」

身のまわりにあったり、どこかで見たことがある物で作品はできています。でも、まったくちがった使い方や組み合わせ方をされると、印象ががらっと変わります。私たちが当たり前だと思っていることにも、実はもっといろいろな面があるのかも。

## 3 今村 育子

1978年、札幌生まれ。
札幌在住

### 「向こうの光」

係員の指示にしたがってケース内に入ってみてください。すきまから差し込む光が変化するのがわかりますか。多くの人が行き交うこの場所の特徴を利用してつくった作品です。直接は見えないけれども、そこに人がいることを感じることができます。

## 4 坂東 史樹

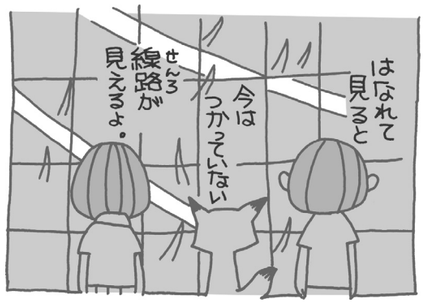
1963年、札幌生まれ。
札幌在住

### 「真昼の星々ー真昼の夢」「真昼の星々ーラスト・フライト」ほか

寝ているときに見た夢をもとに、精巧な模型をつくってピンホールカメラで撮影した写真です。そのつかみどころのない、あいまいな感じは、本当に夢を見ているよう。まるで自分が花やトンボになったような気持ちになりませんか。

## 13 HIDEMI NISHIDA

1986年、小樽生まれ。ノルウェー、ベルゲン在住

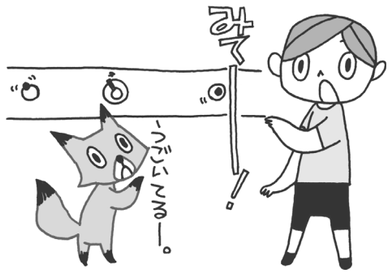



### 「scan_01_5.jul.2014_fin」

草の写真がたくさん並んでいますが、これらはカメラで撮影したものではありません。スキャナーを使って地面を一枚一枚じっくりと写し取っていったものです。遠くから見ると茶色い線路があるのがわかりますか。北海道の開拓にとって重要な働きをした旧手宮線の始発地点付近の今の様子です。

## 14 神谷 泰史

1980年、札幌生まれ。
東京在住

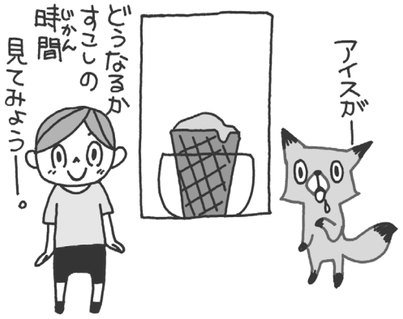



### 「Layered time-motion」

銀色の細長い箱の表面をよく見てください。小さな物が動いているのがわかりますか。ゆっくりと動いた跡が線となって、少しずつ濃くなりながら残っていきます。どこをどのように動いたかということと時間の経過が目に見えるようにもなっているのです。

## 15 鈴木 悠哉

1983年、福島生まれ。
大学卒業後、札幌に移住。
ベルリン在住




### 「“映画について”」

三つの映像には、逆さまだったり、逆再生だったりしているものもあります。同じ時間のスピードのはずなのに、なぜかちがって感じられます。アイスクリームの映像は、止まっているように見えますが、実はゆっくりと変化しています。時々聞こえる街の音は、これらを撮影した海外のいろいろな都市のもの。

## 16 楢原 武正

1942年、十勝広尾町生まれ。
札幌在住

### 「大地／開墾2014-7」

長い黒い壁を埋めつくしているのは、空きカン、車の部品、針金など、もう使われなくなった物たち。作者は黙々と、つぶしたり、巻いたり、打ち付けたりする作業を続けました。タイトルにある「開墾（かいこん）」とは、原野から畑などをつくること。きびしい自然とたたかいながら北海道を切り開いてきた人々と作者の姿勢が重なります。


「時の座標軸」ジュニア・ガイド
発行：創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会
制作：創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会500m美術館部会
イラスト：ryuku


SAPPORO INTERNATIONAL ART FESTIVAL 2014


主催／創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会
お問い合わせ先／創造都市さっぽろ・国際芸術祭実行委員会 国際芸術祭事務局
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市観光文化局国際芸術祭担当部内
TEL：011-211-2314　FAX：011-218-5154　E-mail：info@siaf.jp


札幌国際芸術祭2014
SAPPORO INTERNATIONAL ART FESTIVAL 2014

ゲストディレクター 坂本龍一
開催期間／2014年7月19日（土）ー9月28日（日）　72日間
http://www.sapporo-internationalartfestival.jp

# 「時の座標軸」はこんな展覧会です。

札幌国際芸術祭2014のテーマは「都市と自然」。
札幌市内各所で、このテーマのもといろいろな展覧会やイベントが行われています。この500m美術館もその会場のひとつ。
ここでの展覧会の特徴を紹介します。

### みんな北海道ゆかりのアーティスト

北海道で生まれ育ったり、北海道で長く暮らしたことのある作家がつくった作品を展示しています。この地の気候風土、歴史、習慣などを肌で感じながら育まれた豊かな感性によって、生み出された作品なのです。

### この場所の意味

札幌は、約140年前から一気につくられてきた街です。ほとんど人の手が加わっていない森林が広がる場所が、いまや192万人が暮らす都市になりました。冬には5メートルを超える雪が降りますが、世界中を探しても、こんなに多くの人が、こんなに雪が多い街に住んでいる所はありません。その発展のなかで、みなさんが今いる地下通路や地下街もつくられました。雪を心配することなく、いつでも快適に通ることができるこの場所は、まさに都市化した札幌を象徴するものと言えるでしょう。

### 重なりあった「時間」を感じる。

大昔から変わらずにあるもの。人がつくり出したもの。人が多く住むようになって変わったこと。それらがこの街の大空や大地や地下空間に広がっています。さまざまな時間の流れがいくつも重なって成り立っています。
この展覧会は、都市と自然とのかかわりを、「時間」ということもふくめて考えていこうとするものです。

## 5 中嶋 幸治

1982年、青森県生まれ。
札幌在住

### 「故郷をつくる」

机が7台並んでいますが、それぞれ左と右からはじまって中央に向かうストーリーになっています。左の方には地図や小さなコンクリートブロック、右の方には風をイメージさせる紙や土が置かれています。都市と自然との関係をいろいろと考えさせる作品です。ぬけがらのような手とその動きにも注目。

## 6 武田 浩志

1978年、札幌生まれ。
札幌在住

### 「Utopia Tara-Tara 01」

家が積み重なった不思議な建物のようにも、家具のようにも見える、楽しく軽やかな形です。よく見ると、いろいろな材料や模様が組み合わされています。大切にとっておいた物やアトリエにあった木片、むかし描いた絵などが組み込まれているそうです。壁の絵にも、いろいろな模様のなかに人の姿が見えます。

## 7 谷口 顕一郎

1976年、札幌生まれ。
札幌とベルリンを中心に活動

### 「札幌市中央区北12条西20丁目（中央卸売市場 青果棟前歩道）」のための凹みスタディ#6（2倍スケール）」

道路にできたヒビの形を写し取ってつくった作品です。このヒビは、長い間に多くの車や人が通り、何度も冬を経験するなかでできたもの。また、この道路はここに流れていた川を隠してつくられたそうです。そうした歴史を感じながら、やっかいものの凹みに、美しさと価値を見出して彫刻にしました。

## 8 伊藤 隆介

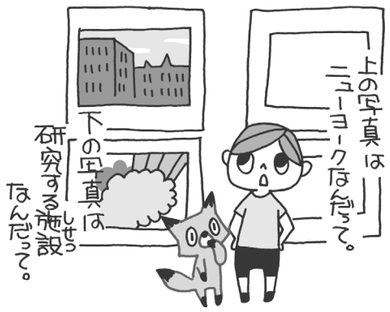
1963年、札幌生まれ。
札幌在住

### 「Moon Maker」「Field Watcher」

中央の大きな画面に映っているのは、昔から変わらずにくり返される月の満ち欠けと、地下の廃墟を突き進む映像。人類が滅亡した後の姿のようにも感じます。でも、これらはとなりにある小さな模型を写しているものなのです。私たちがいつもテレビなどで見ているものも本物なのでしょうか。

## 9 高田 洋三

1971年、札幌生まれ。
東京在住

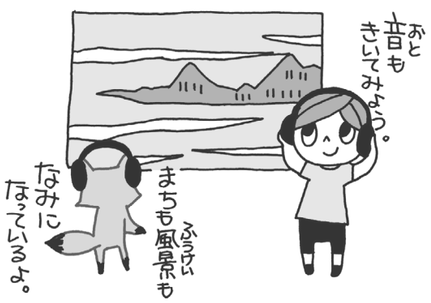



### 「In Our Nature」

アメリカで撮影された二つの写真がセットになって並んでいます。上はニューヨークの街。下はアリゾナ砂漠にある生態系を研究する科学施設です。多くの人がせまい所に集まって住む都市の姿と、研究のためにつくられた人工的な自然の姿。まったくちがうようでいて、どこか似ていませんか。

## 10 宮永 亮

1985年、北海道生まれ。
京都在住

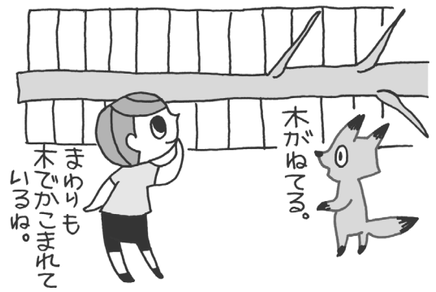



### 「WAVY」

生まれ育った北海道から、いま住んでいる近畿までの風景が重なり合いながら続いていきます。タイトルの「WAVY」とは「なみ」のこと。家並み、街並み、山並み、人波など、日本語のもつ「なみ」のいろいろな意味を含めながら、日本の都市と自然の姿が美しく織りなされています。

## 11 山田 良

1968年、東京生まれ。
札幌在住

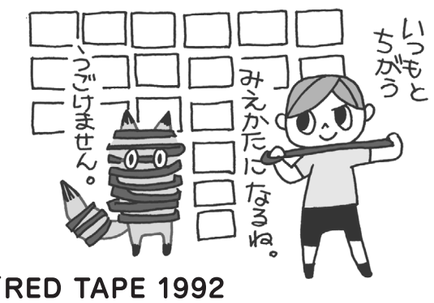



### 「横たわる樹木／光競争の跡」

札幌の建設現場で切られたシラカバが横たわっています。まわりの箱は、間伐材でできています。人が住むために切られた木、他の木を育てるために切られた木。どちらもできるだけ多く太陽を浴びるために、他の木と競争しながら枝を広げていました。それらが別々の姿で地下の空間に人工の光を浴びて今ここにあります。

## 12 藤木 正則

1952年、旭川生まれ。
旭川在住




### 「RED TAPE 1992 ―500m美術館バージョン―」

赤いテープでぐるぐる巻きにされているのは、自動車、公園のベンチに座る人、電車のなかの人…。こんなことをされると、まったく身動きがとれなくなってしまいます。22年も前に行った時の記録写真と映像ですが、私達の自由を奪っていくような最近の社会の動きを感じて、作者はあえてこの作品を展示しました。